

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 成田市立公津の杜小学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例: 小中高一貫 )  
所在地 〒 286-0048  
千葉県成田市公津の杜3丁目2番地  
E-mail es-mori@edu.city.narita.chiba.jp  
Website http://www.edu.city.narita.chiba.jp/es-kouzunomori  
幼児児童生徒数 男子 400 名 女子 422 名 合計 822 名  
幼児・児童・生徒の年齢 7 歳～ 12 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、平成 26 年度にユネスコスクールに認定された。ユネスコの理想を実現するために、平成 27 年度から、児童自身が身近なものから課題を見つけて解決していこうとする意識をもてるように、児童の ESD 委員会を立ち上げ、「明日につながる みんなの笑顔」をスローガンとして、今年度も様々な取組を実施してきた。

具体的には、未来像を予測して計画を立てる力、他者と協力する態度、つながりを尊重する態度を育むことを柱とし、①国際理解に係わる活動、②貧困に係わる活動、③地域ボランティアに係わる活動を行った。

### ① 国際理科に係わる活動

ユニクロが行っている、難民へ衣服を送る活動「届けよう、服のチカラ」プロジェクトの主旨に賛同し、学校や地域のコミュニティセンターへ呼びかけ、衣服の回収を行った。

## ② 貧困に係わる活動

継続して活動したことは、ペットボトルキャップ回収である。キャップのリサイクルで、世界の子どもたちにワクチンを贈ることができることを知り、毎週回収活動を行った。回収業者からの集計結果を掲示し、どのくらいの量のワクチンに変えることができたのか、成果の視覚化にも力を入れた。その他にも、毎年続けているユニセフ募金やユネスコ世界寺子屋運動も行った。

## ③ 地域ボランティアに係わる活動

今年度も人や地域と自分のつながりに関心をもたせ、それらを尊重できる児童の育成を目指し、ESD パスポートを活用した児童の自主的なボランティア活動を推奨した。成田ユネスコ協会、NPO 法人「住まい・まち研究会」(グループリビング「ももとせ」)、コミュニティセンター「もりんぴあ」、グループホーム「きらら」に協力を依頼し、ボランティアの場を提供していただいた。



## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他 (地域ボランティア)		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他 (自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他 (自由記述 委員会活動, ボランティアは放課後・土日等 )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<ul style="list-style-type: none"><li>・ “届けよう、服のチカラ” プロジェクト (URL <a href="https://www.uniqlo.com/jp/sustainability/school/">https://www.uniqlo.com/jp/sustainability/school/</a>)</li><li>・ アルファ・ジャパン チャイルドワクチンサポートペットボトルキャップ無料回収 (URL <a href="http://www.ecocap21.com/">http://www.ecocap21.com/</a>)</li><li>・ 2017 年度「ユネスコ協会 ESD パスポート」実施要項</li><li>・ ユネスコスクール公式ウェブサイト (URL <a href="http://www.unesco-school.mext.go.jp/">http://www.unesco-school.mext.go.jp/</a>)</li></ul>
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

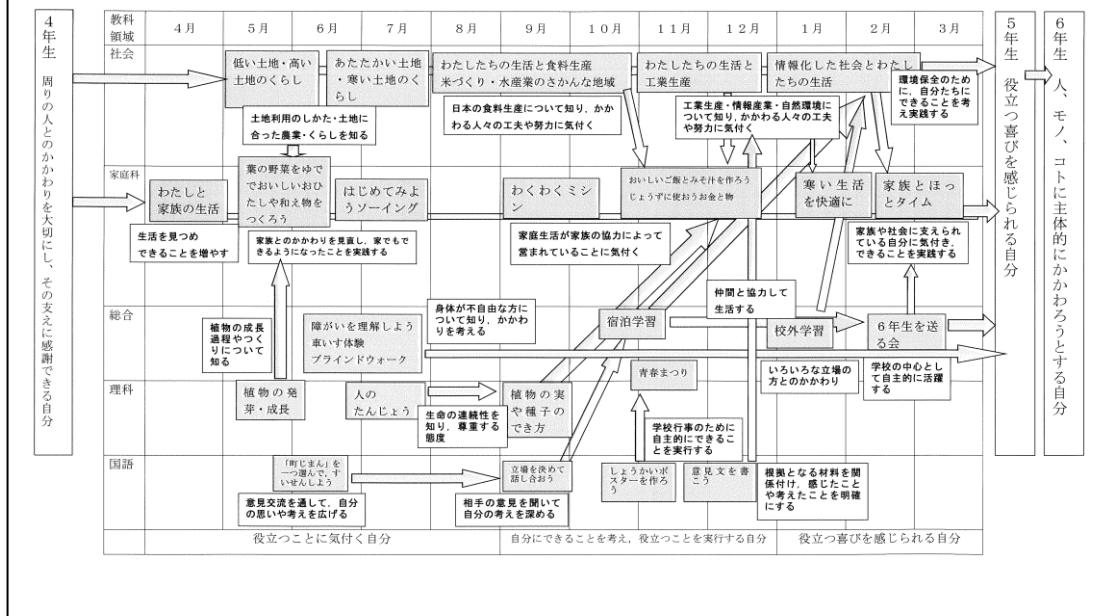
校内研究においても ESD の視点を活用した。研究主題は「好きが増える子の育成」である。本校が意識してきた7つの視点から、「つながりを尊重する態度」に焦点を当て、友達や家族、地域が好きな子どもの育成を目指した。そのために、各学年の目指す児童像を明らかにし、そこにせまるための単元構成の見直しも行った [資料1, 2]。

[資料1] 目指す児童像の一覧

学年	目指す児童の姿
6年	人、モノ、コトに主体的にかかわろうとする自分
5年	役立つ喜びを感じられる自分
4年	周りの人とのかかわりを大切にし、その支えに感謝できる自分
3年	周りの人、モノ、コトにかかわろうとする自分
2年	人とかかわることに喜びを感じられる自分
1年	できる喜びを感じられる自分

[資料2] つながりの表（例：5年生における単元構成の見直し）

5年生の目指す児童像 役立つ喜びを感じられる自分



- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

校内の委員会活動として ESD 委員会を設置し、それを中心として代表委員会を組織している。そこで決まった取組や成果については、全校集会や放送、掲示によって児童に伝えるようにしている。ボランティア事業については、活動主旨を理解していただいた事業所に、継続してボランティア活動が行えるよう依頼を続けている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

学校全体として児童の生活の様子が向上したか(例:あいさつ等)については、児童・保護者・教師の学校評価アンケートをとっている。それによって、今年度の委員会を中心とした活動にどのような成果があったのかを振り返っている。

成果:清掃において黙働を徹底できるようになってきた。自分たちの活動が世界に役立っていることを少し感じてきている。

課題:あいさつについては、児童・保護者と教師の評価に差がある。ユネスコスクールとしての取組をもっと積極的に児童に周知していく必要がある。

ボランティア活動においても、年度末にアンケートをとり、内容の改善に努めている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

市内の「ユネスコ協会・ESD パスポート研修会」において、当校のボランティア活動実績を報告している。また、ボランティア活動を継続した児童の体験発表も行った。研修会の参加者には、活動内容をよく理解していただくことができた。「千葉県ユネスコスクール・ESD パスポート研究会」においても、実践発表の機会をいただいたが、校内行事と重複したため紙上提案となった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）  
（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

- ・ 成田ユネスコ協会
- ・ 株式会社ユニクロ
- ・ コミュニティセンター「もりんぴあ」
- ・ 特定非営利活動法人 住まい・まち研究会「ももとせ」
- ・ グループホーム「きらら」
- ・ アルファ・ジャパン チャイルドワクチンサポート事務局

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

平成 26 年度にオーストラリアのアーミデール小学校と交流実績あり。交流手段は「Skype」を活用した。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

各学年の目指す姿を明らかにし、カリキュラム・マネジメントを行うことで、教師が各教科のつながりを意識した授業改善を進めることができた。それにより、高学年の児童においては「持続可能性」というキーワードが定着してきている。また、児童自身の自主的なボランティアにより、児童自身が考え、意思決定をして行動することが増えつつある。さらに、児童自身がボランティアを行うことに達成感や自己肯定感を感じている。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

当校は創立12年目で、比較的新しい学校である。施設の面でも「絶対にこれがほしい」というものが少ない環境にある。その恵まれた環境の中で、世界や地域の問題を自らの問題としてとらえさせることは少し難しいが、とても大切なことだと考えている。その課題解決のために自分たちにもできることがあることに気づき(Think globally, Act locally)、実行していけるようにしていきたい。

- ・学校のスローガンおよびユネスコスクールであることを、全校児童にあらためて周知する。
  - ・校内の笑顔を増やすため、各委員会で活動する。
  - ・ESDパスポート事業を継続していく。
  - ・家庭科の研究発表に向けて、校内の家庭科研修を充実させる。
- 活動分野として「10.食育」と「11.持続可能な生産と消費」についても考えさせていきたい。